

カラー

- 28 石井旭舟 **へらぶな浪漫街道**
《第八十六回》兵庫県 生野銀山湖
- 35 小池忠教 **激釣テクニカルアドバース**
《第7回》深田両ダンゴ 千代田湖 ゲスト・福富大祐さん
- 40 生井澤聡 **挑戦者魂**
《第7回》茨城県 潮来前川
- 47 杉山達也 **ULTIA SPLASH**
《第7回》チヨーチン両ダンゴin清遊湖
- 52 中澤岳 **攻めの美学**
《Case 6 三名湖》シマノ「野釣りで一本勝負!!」
- 58 早川浩雄 **「鉄壁・早川スタイル」**
《第13回》横利根川、初夏の浅タナ両ダンゴ
- 62 61 **★AREA REPORT**
山中湖(山梨県) 本誌・伊藤洋一
和気の池(石川県) 竜門ダム(熊本県) 山本一朗 河口正伸
水広下池(愛知県) 後藤誠
布目ダム(奈良県) 前田誠志
- 134 **第7回 HERA-1GP 決勝大会 隠れ谷池**
- 139 **第2回 オナーカップへら 金勝杯 野田幸手園**
- 142 戸張誠 **激釣の余韻**
《第5回》(盲険)精進湖
- 147 岡田清 **Deep Side Angle**
《Vol.52》(日曜日、メーター両ダンゴ)隼人大池
- 152 田辺哲男 **MYへら道**
《へら道その十五》河口湖のスーパービッグ美へらを釣りたい!
- 156 天野正由 **緑萌ゆる釣り場を巡る**
《第7回》白樺湖へのこだわり 白樺湖&奥多摩湖
- 160 釣り人のお仕事
《第5回》ゲスト 新美 護さん
- 193 棚網久 **全開MAX**
《第6回》松原湖完全攻略!!



NEO-HERA Proleague 2008 第一戦 [羽生吉浩]

- 200 北川穂積 **西の交友録**
《第三十二回》ゲスト・岡田氏 釣り場・阿武川ダム(山口県)
- 202 釣りの味
《第18回》中国料理「チャイナドル」豚足やわらか煮
- 205 釣果予想クイズ
- 206 フィッシンググレディ
《今月のレディ》其田圭子さん 野田幸手園
- 208 **モノクロ**
- 66 乗込み特別企画 **僕が巨べらを食わせるまで**
- 71 第2回 枯法師クラシック 椎の木湖
- 74 **へら鮎釣り 超基本講座**
《第42回》カック釣りの超基本
- 86 **ガチンコ道場**
《第33回》富里乃堰で全国を決める!! G杯&マスターズ予選
- 97 **08シマノCUP韓国へら釣り大会**
- 98 江成公隆の「トーナメント」、復活への道。
《Vol.74》立つんだジャー...
- 102 水辺のプラネタリウム 吉本亜士
《今月の星空》「中村岳陵」
- 106 紀州製竿組合懇親釣り大会 隠れ谷池
- 108 **最狂へら戦士養成所「鮎の穴」** 漢タカハシ
《第66回》ザ・検証 マッシュは管理釣り場で通用するのか?
- 112 **へら鮎Cafe** 西田美明
《Vol.8》[after the rain]

p.12 **特集** 夏の三名湖で、チヨーチン王が怒濤の爆釣を決める!
杉山俊弘「王道チヨーチン両ダンゴ」
《野釣り編》

p.23 **特集 II** 2008 椎の木湖杯優勝。『隠れた名手』にスポットを当てる!
那須善昭「パワフルウドンセット」
in 椎の木湖

STAFF

- 発行人 根本百合子
- 編集長 田中里史
- 編集部 大場勝良 諸富一秋 伊藤小百合 伊藤洋一
- へら鮎NET 根本大作 八十田昌広
- 企画 <オフィス・えび> 藤原 肇

釣り場割引クーポン券 p.163~

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼上尾園
F.A吉羽園 谷養魚場 将監 柳生FP 筑波白水湖
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖 三和新池 川越FC
鳥羽井沼大上へら池 霧の沼 小川つり堀園 府中HC
清川つくしFC 千代田湖・舟宿 千和 相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩 吉森HC 甲南へらの池
当麻池 水藻FC朝日池 釣り堀八十八 浜野HC
精進湖・舟宿 金風荘 西湖・釣舟 白根 西湖 釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原

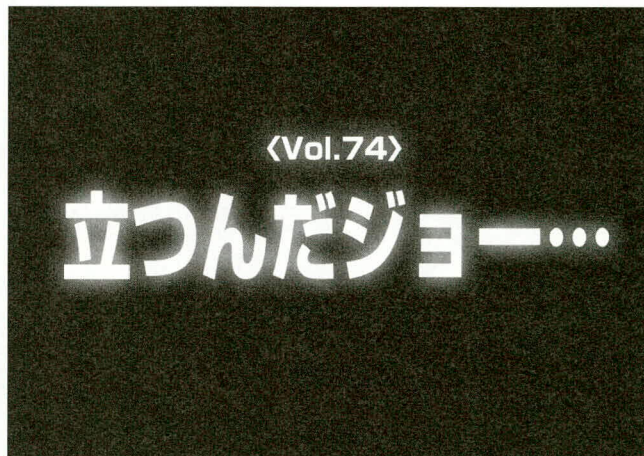
※「竹竿の似合う釣り場」「小林恭之 ノルマでGO!!」は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメンター、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka

業用紙 Web運動会画! (URL) <http://hecar.yokohamaturumi.net>



緊急事態である。届いた原稿を読んで、里は愕然とした。江成はここまで追い詰められていたのか…と。里は以前から「江成の家庭が危ない」と書いてきた。江成本人も書いていた。しかしそれは、ギリギリで冗談に出来るレベルだと思ってきたし、本当に危険な状態があったとしても、何とか乗り越えてきたのだろう、と。

江成は月に一度しか釣りに行かない、どこにでもいる普通の釣り人である。

ここだけ見れば、釣りが直接家庭崩壊に結びつくとは言えない。

家庭が崩壊しているのではなく、江成自身が壊れているのかもしれない…。

ここ数ヶ月の「異変」を、里は笑って読んでいたが、さすがにタオルを投げ入れたい衝動に駆られた…。だがしかし、今回のタイトルは里が付けた。江成の生原稿には、タイトルが未設定だったのだ。

僕は鬼、だろうか…

by 里ちん



連載が始まってから今日という日までは、明らかに家族を犠牲にしてきた6年間だった。二歳だった長男は小学校二年生になり、崩壊していた筈(?)の家庭になぜか次男が誕生し、その子もすでに三歳。年少さんである。抜け殻だった僕を拾ってくれたのは里ちん。連載をきっかけに再び釣りへの情熱を取り戻せたことは本当に感謝している。

何事も夢中になり過ぎる傾向がある僕でも、父親になってからは、持ち時間の割り振りは悩んだ。

単純に釣りにだけ時間を割く訳にはいかないとこの思考回路は持っていた。釣行回数を上げて練習に時間を割くことは難しいという判断が、トーナメンターとして再び全国の舞台に上がるというメインテーマを完全に拡大解釈させ、まずは名手に教えを乞うという展開に持ち込ませた。

ところが誤算があった。執筆が面白くて仕方なかったのだ。

生意気にも「軽くおさらい」のつもりで始めたシリーズで、現役時代には想像もつかなかった新しい世界に触れることが出来たからである。とくに、北城 錦氏を講師に迎えた底釣リゼミの執筆には、膨大な時間を費やした。僕にはすっかり新しいテーマが芽生えていた。

「復活なんてどうでもいいじゃないか。まだまだ埋もれている筈のほんのちよっとしたこと、拾い上げてみたい。これこそが僕のやるべき仕事ではないのか。ライフワークではないのか」

僕は、批判をものともせず、次から次へとノーガキ編を展開していった。最近では全

編が理論系という原稿はほとんどないが、それは、「ネタもない」けれど、「時間が無い」からである。

技術的な部分の記述は、記事への無駄な攻撃を少しでもかわすために「検証レス」と謳うことが多いものの、やはりそれなりに気を遣う。数式で表すのではなく、言葉で伝える理論やイメージであるならば、単語ひとつ、接続詞ひとつで、ニュアンスがまるつきり変わってくるためだ。一行一行、いや一語一語を吟味しながら文章を作っていくのは、気の遠くなる作業だ。それでもやりがいを見出し、てしまっていた僕にとっては、楽しい作業だった。

釣行回数が増えなくとも、原稿にパパの時間を取られた家族にしてみれば、「釣り」は悪でしかない。おさらい編が一段落してよいよトーナメント参戦という段階になった時、女房の不満は爆発した。これは当時、記事にも、僕も大いに反省もした。

それからしばらくすると、職場での様々な問題に、釣りに行く時間も原稿を書く時間も奪われた。取材も出来ず、原稿を練る時間もなく、仕方なく僕は、職場のことを書いた。するとこれが全く予想外なことに「リアルなイチ釣り人の苦悩」として、多くの読者の支持を得た(らしい)。

「もう復活しなくていいから、いろんなことを書いてくれ」

…という声を度々聞くようになったのもこの頃である。僕は気が楽になったが、編集長という立場になっていた里ちんにとっては、苦悩の始まりだったに違いない。

その後、前職場を追放!?というカタチで僕は異動になった。ゼロからの再出発と次男の誕生で完全に僕のペースは狂い、そこでこの連載は終わる筈だった。が、何を思ったか里ちんの提案でカッピ西澤氏にピンチヒッター

ーをお願いし、僕の連載は続いてしまった。カットビ君にあそこまで持ち上げられては、単純な僕がその気にならないわけはなくて、「何書いてもいいんだっつら」

で、連載再開となった。のらりくらりでたまにトーナメントに参戦してみたり、過去の遺産に細工をして続編を書いたり、業界に軽はずみにモノ申したり、会社のグチを書いたり：完全にやりたい放題だった。里ちゃんは頭を抱えていたが、しかし、またしても世の中は面白いもので、こんな僕のデラメぶりも、さすがにそれくらいは分かっていった。

ナリーズ結成で完全に暴走を始めた僕に、里ちゃんはいくらか距離を置いた。それでも、連載を終わらせようとしなかったのは、何とんでも僕に結果を出して欲しいという期待の裏返しだったのだと思う。鈍感KYな僕でも、さすがにそれくらいは分かっていった。

自らトーナメントでの全国大会行きを望み、競技大好き人間を自認し、競技がこの釣りを発展させたことは間違いないとも認識しながら、競技がこの釣りをつまらなくさせてしまった責任も大きいと書いた。

自分が結果が出せない言い訳と受け止める人にはそれはそれで構わないと前置きしつつ、結果が出てしまう遊びは残酷で、多くの人が負け組になる構図では業界は盛り上がりがないと断じた。

どこかの幼稚園のように、徒競走で手をつないでゴールインしようと言っているのではない。多様な楽しみ方を互いに理解しあえる土壌が出来ていないということなのだ。負け惜しみではなく、結果が全てではない。過程も大事だ。いろんな楽しみ方があっていい。ただ、トーナメントとして復活を目論む僕が書くのは、どんなに前置きしようともいささか問題があった苦だが、そんなことは承知の上で、僕は書いてしまった。僕が僕たる所

である。

ナリーズ結成とほぼ時を同じくして、僕は店長に就任していた。

店長という言葉が想像させる責任と、その責任に見合うかどうかは微妙なもの、いくらか上がった給料により、家族サービスが封印されても、あからさまな文句を言えない立場に家族を追い込んだ。

釣行回数はそれまでと変わらないから、釣りへの文句も言いつらかったらう。厳密に言う、家族サービスはそれほど減っていない。隙間の時間で出掛ける外食はあるし、運動会や発表会もほとんど参加したし、ディスプレイにも映画にも水族館にも連れて行ったり、ゲームもオモチャも買い与えたり、親のよりいいものを着せている。減ったのは、そこにあるべき父親の笑顔と、親子間のコミュニケーション。もちろん夫婦のコミュニケーションも。

「モノより思い出し」
どこかの自動車メーカーのコマーシャルだが、モノを買い与えればそれで親の役目は終わるわけではない。そんなドラマに出てくるようなバカ親は、僕にとってももちろん軽蔑の対象だった。しかし、自覚しながらもそう成り下がらざるを得ない僕がいた。カタチだけ取り繕っても、しよせん自己満足ではない。休日のひとつが徹夜明け。起きているのが精一杯だった。徹夜明けでも釣りなら夢中でやるくせに…。

ナリーズという暴走機関車には、多くの夢を載せた。
どのお店を上げて行く自分に対し、「家族ひとつまもに守れなくせに、いったい何が出来るのか」という葛藤は常にあった。もちろん女房にもあったらう。それでも、メンバーのノリと勢いには心地よく酔えたり、家族以外の場

所に癒しを求める罪悪感は希薄だった。「イケイケで時間が足りないのは今だけ。今しか出来ない。時間が足りないほど忙しいのは、誰かに必要とされている裏返し。だから僕は生かされているんだ。幸せなことだ」

忙しさに酔っていた自分に、僕を本当に必要としている人の優先順位をあらためて考え直すことは出来なかった。過去に全く同じ過ちをし、記事にもしながら、である。結局、「自分がやりたいこと」で優先順位を決めていたに過ぎない。



仕事への熱中時代が一段落し、僕の中で何が弾けたのは先月号に書いた。先月号の記事にも多くの反響が編集部に寄せられたらしい。もちろん、賛否両論。
サラリーマンである。歯車である。そう自覚すれば、

「適当にやっつてさあ」
と一瞬開き直ることは出来たが、かわい部下を守るの、人としての責任であるという認識が変わりはない。
…やっぱり僕は本当に大バカ野郎かもしれない。

また異動前の職場のように醜い労働環境に追い込まれつつある僕の店では、モチベーションが下がったからといって、僕の業務量も減ることにはならないのが現実だ。

勘違いな、前向きな、オリジナルな、余分な仕事をゼロにしても、店長としての業務をこなすための時間がほとんど与えられていない状態では、帰宅時間は熱中時代と全く変わらない。むしろ、遅くなった。休日に職場へ出向く頻度も増し、子供と顔を合わせることはほとんどない。

四季のへら釣りを楽しむなら

自然美溢れるダイナミックな釣趣！

と づ ら は ら

戸面原ダム

料金 1日3000円

営業時間

5月~8月	AM5:30~PM4:30
9月~10月	AM6:00~PM4:00
11月~2月	AM6:30~PM3:30
3月~4月	AM6:00~PM4:00

定休日 毎週木曜日

★

☎0439-68-1587 戸面原ボートセンター 千葉県富津市豊岡2874-1

※戸面原ボートセンターまで、富津中央ICより所用約16分です。

生活レベルというのは、そう簡単には落とせない。転職して給料が上がるほどのスキルは僕にはないから、軽はずみに会社を辞めるわけにはいかない。ぶら下がるしかない。だから、何とか居心地をよくしようと必死にもがく。

どこまで行っても鹵車であるという自覚が僕の出世欲をゼロにした今、僕の進むべき道は、クソの役にも立たないとはわかってはいるけれど、社内での僕の精神状態を健全に保つための残された唯一のスタンスとして、労組の方向かもしれないと思っただ。

今の僕は、労組の中でたいした位置にない。本気でその道に進むには、秋の大会で行われる選挙で立候補する必要があるが、選管委員長として参加した昨年度も、その前も、その前の前も、とにかくずっと、ポストと立候補者は同じ数だった。つまり、事前調整が行われているのだ。いつも互選で決まる。

組織というのはそんなものだが、ある幹部に立候補を打診したところ、よく考え直すよと遠回しにお断りされた。

何にでも唾み付く僕のような人間は煙たいのだ。

労組幹部も鹵車である。情熱は要らない。

熱中時代の終わりを感じた時、自分が抜け殻になってしまうのを回避することが、僕には出来ることも先月書いた。僕には釣りという趣味があって、素晴らしい仲間がいるからだ、と。

里ちゃんが書いたこの連載の第一回目で、僕のうち状態の頃の回想シーンがある。遊びに行く気も起きないのはかなり危険だと、当時の僕は言っている。そんな気になれなくても、強制的に行くべきだと。

「大義」なんていう大それた言葉を持ち出して、人生を生意気に語ったこともあった。家族に向き合うことがちっぽけなことだと書いたつもりはない。結果として時間は生まれなかったものの、仕事を適当にやろうと思っただけに、なぜか趣味なのか。なぜ家族を飛ばすのか。待っていたのは誰なのか。今、かつて味わったことのない罪悪感が僕を襲っている。

夫婦のコミュニケーションはめっきり減っていたが、職場が混乱している話は少しだけした。そして、組合幹部との顛末も。「もう、いい加減にして。これ以上やることを増やさないで...」

僕の腹は決まった。



1日は24時間しかない。だから、取捨選択が必要になる。やりたいことを増やすばかりでは回らないから、今までも色々なものを捨ててきたつもりだ。町内会活動もそうだし、ウキも結局作らなかつた。マックいじりも封印した。いま自宅サーバがダウンしたら、僕には完全に復旧させる自信がないほどに興味が薄れている。本当。もちろん道具としてパソコンには毎日触れるから、より速く安定したマシンが欲しいなあ程度のことでは考へるけれど、「自作自演」なんていうのもあったな...

それらは全て大事なものであった。でも、自分にとつてもっともやりたいことだったかと言えば、それは嘘になる。家族を犠牲にしてまでやりたいことは、一切削ってこなかつた。それは、釣りだったり、連載だったり、余分な仕事だったり...

一番大事な父親との時間を削られ、我慢してきた家族に対し、僕がしなくてはならないことは、「家族以外の優先順位の高いもの」をバツサリ切り捨てることではないかと考へ

ている。僕の心が痛まないものをいくら捨てても、意味がないのだ。

とはいえ釣りはやめられないし、僕の精神バランスを保つためには、やはりやめてはいけないとも思う。ズルいようだが僕が壊れてしまったら、家族もへつたくれもない。

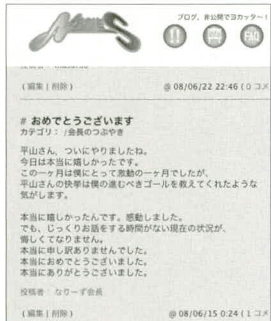
また、釣りに罪はない。付き合ひ方を間違えた僕が悪いだけであつて、釣りは素晴らしい趣味だ。それは今でも痛烈に思う。

ナリーズはすでに僕一人のものではないから、たむ気もないし、身を引く気もない。今まで通り参加し、やるからにはその日一日を真剣に勝負するつもりだ。でも、ナリーズはもう僕がいなくても大丈夫だ。最近のメンバーの活躍はめざましい。オーナー準優勝の平山幹事長はじめ、岡田のみっちゃん、へら専科デビューの副会長：みんなもう有名人だ。僕の記事などなくても、メッセージを発信出来る人物が育つた。

だから、この連載を終わりにしたい。

ここまで引つ張っておきながら、本来の「トーナメントとしての復活」という志半ばで降りることが、どれだけ笑ひ者になろうと構わない。どれだけ勘違いと笑われ、批判されても、全く気にせずに突き進んできたエネルギーは本物だったと自信を持って言える。全力だった。

読者の皆さん、ナリーズのみんな、そして里ちゃん、もういいよね...



ナリーズブログ（会員専用）のスクリーンショット。平山氏の活躍に、江成が寄せたコメント...

新作!! 慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。杉山作初の美しいブラックボディで登場!

【底釣りスタイル】

杉山作

繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
 ●ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精神な極薄ブラック塗装仕上げを採用
 ●タイン製ホイトトップ（内径1mmパイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP!
 ●サイズ：一番（T10cm B9cm カーボン足4.3cm）～六番（T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm）
 ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
 ●定価1本7,350円（税込）

取り扱い店（五十音順）
 埼玉・越谷 かわせみ（☎048・969・5067） 茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619） 東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）
 埼玉・入間 へらの三水（☎042・964・2093） 栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215） 神奈川・川崎 贈仙人（☎044・287・7470）
 東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923） 東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの鮎会
- 2.ぐりへの鮎会
- 3.ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに
転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟 (東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店 (神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館 (東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原 (神奈川県川崎市)

044-711-8266

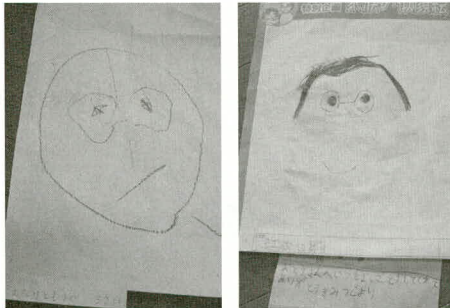
鮎仙人 (神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com



父の日に江成の二人のお子さんが描いた絵。
これを見て、江成は決意したのだろうか…

ある読者とのやりとり…

原稿が送られてくる前に、江成からこんなメッセージが届いていた。
ある読者とのメールのやりとりを転送(本誌転載にあたり、ご本人に許可をいただいております)してきたものだが、江成の苦悩が窺える。ご覧下さい…

by 里ちゃん

江成公隆様

こんにちは、ちょっと気になったのでメールします。

昨日はG杯お疲れ様でした。自分はフリーで釣行しましたが、江成さんは見つけられませんでした。渡りの奥は早く席を確保しないとなくなりそうでしたので、よって結果は仲間に聞きかじった情報しか知りません。

「両マウス」だったそうですね。某氏によれば「普通の釣りでは対抗できない」という話でした。タイフーンさん。

失礼しました。本文はそのタイフーンの日程です。「へら鮎7月号」に「8日(タイフーン)とありました。タイフーンは6月7日(中略)では当日7日(中略)はお願します。」
On 2008/06/02, at 16:05, ○○様 wrote:

○○様

こんにちは。返信が遅くなりすみませんでした。この一週間、全くメールチェックしていませんでした。ごめんなさい。

ご指摘の通り、タイフーンは僕の勘違いでした。脱稿しても全く気付かずに、G杯終了後も気付いていませんでした。知り合いから指摘を受けたのは、水曜日でした。今日は次男の運動会で、タイフーンは昨日キャンセルさせていただきますました。笑って下さいませ。

On 2008/06/07, at 21:57, 江成公隆 wrote:

江成公隆様

しよありがとろとろしています。子供心にその運動会は深刻な出来事でした。小1から教室でひとり食べた弁当の冷たさを覚えている者にとっては思えます。(中略)

タイフーン、自分は検査パス。風も食入らずに帰りました。しばらく釣りに行きたくありません。
On 2008/06/08, at 18:31, ○○様 wrote:

○○様

お疲れ様でした。理論では勝てないはずはないです。先日のG杯では、僕は本当に惜しかったと思っています。自分で言うのも何ですが…。連載6年で最大のチャンスだったと思います。理論で勝てる証明をする最大のチャンスでした。で、今週のタイフーンはキャンセル。どうしようもないですね。

しばらく釣りに行きたくないというお気持ちちはよくわかります。今回の僕もそうです。競技がこの釣りを発展させたのは間違いないですが、競技がこの釣りをつまらなくさせた罪も大きいと時々感じます。

結果は残酷です。プロセスも楽しみたいのに、負け惜しみとかとられない現実の前に、多くの愛好者が去っていきます。僕は、全国大会に行つて、これを言つてもいいです。でも、もうチャンスはなさそうです。僕は、大きな岐路にいます。

On 2008/06/08, at 19:09, 江成公隆 wrote:

江成公隆様

度々の返信すみません。ファンの声に言わせてください。

「辞めなさいなさいなさい」

自分は「トナーメーター」が無くなってしまったら「へら鮎」を買わなくなるかもしれない。江成さんは毎月月々釣行の師の星だと思つてます。もちろん潜在能力の違いがあるのは承知の上です。でも、日焼けして真っ黒になるほど行なへんも全国の舞台に立てたんだと証明してくれると信じています。すみません、江成さんの生活を完全無視の発言ですね。奥さんごめんなさい。

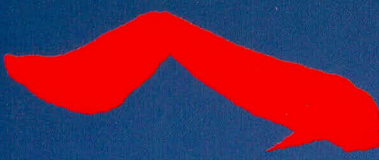
そしてそれを証明した後は、何故それができたかの連載が始まると思つてます。頭の中にあるものを全て書いてしまつて辞めてもらつては困ります。たぶん全国の月イチ釣り師がそう思つていると確信しています。

「まだ」6年じゃないですか。頑張れば頑張るほど「遊んでる」と思われるこの競技の宿命を理論で攻めする…。夢の実現を待ちます。

On 2008/06/09, at 22:33, ○○様 wrote:
たいへんありがとうございます。今日、平山氏がオーナーカップで優勝者と同釣果(申し込み順で二位)だったと連絡がありました。僕の進むべき道が見えたような気がします。

On 2008/06/15, at 00:42, 江成公隆 wrote:

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...



へら鮎

九隻
内言

Monthly fishing magazine herabuna

No.512
Aug.2008

8

平成20年8月1日発行 (毎月1日発行) 第4巻 第8号 2004年8月4日創刊 三郷町発行

いよいよ、夏。

特集

夏の三名湖で、チョーチン王が怒濤の爆釣を決める!

杉山俊弘【王道チョーチン両ダンゴ】 ~野釣り編~

特集Ⅱ

2008椎の木湖杯優勝。“隠れた名手” にスポットを当てる!

那須善昭【パワフルウドンセット】 in 椎の木湖

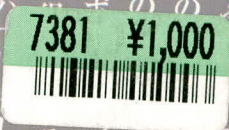
原点は不変。

大型が好むといわれる、強いボソ感。独特の、下方向への縦バラケ。このふたつが、「バラケマツハ」の大きな特長だ。

最近のエサの組み立てにも欠かせないし、下へのボソには魚を呼び込みながら、テンポよくいくのに有効だ。

私が釣る、チョーチン両ダンゴの釣りでも、「マツハ」は決して手放せないね。

石井旭舟



●バラケマツハ 700g スライダーチャック袋

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第43巻第8号（毎月1回1日発行）
平成20年8月1日発行

定価 1,000円 本体九五二円

丸マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>

マルキューホームページ内の「へら鮎天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
<http://www.marukyu.com/> マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。



雑誌 07907-08



4910079070889
00952